古文書解読にチャレンジ！　その１８　解答

板倉代参
　上権左衛門
　や権左衛門
鴻巣迄出迎
　下定右衛門
　上与次右衛門
川越迄同断
　ヤ武左衛門
　下彦兵衛
一金壱分　護摩料
一金弐朱ト　坊入
　弐百文
一金壱分　代参弐人小夫
一金弐朱　鴻巣出迎弐人分
一四百文　川越迄同断弐人分
廿五日
一弐拾八文　政右衛門出半紙壱帖
廿五日
一弐百拾四文　米壱升五合
　七合がへ
一三百文　宝珠寺茶料
一金壱分　村役人勘定入用
一四拾八文　らうそく代
一五拾六文　半紙弐帖

【解説】

●雷電（らいでん）神社と廻り田の雨ごい

　現群馬県邑楽郡板倉町にある神社。関東一円、特に利根川中上流域に点在する雷電神社の総本山です。

　周辺地域には雷電神社で祈祷をし、お水をもらう「雷電講（板倉講）」と呼ばれる雨ごいの習慣がありました。

　嘉永六年の廻り田村で行われていたこの雨ごいも「板倉」へ赴き、鴻巣、川越を中継しながら水を村まで運んでいたことがわかります。

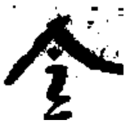
　また、雨ごいには多額の費用がかかりました。この帳簿には、板倉や中継地点までの旅費、宝珠寺での雨ごいの日待ちをした際の茶料、護摩料、飲食代、ろうそくや半紙代など、金一両一貫二百五十文が計上されています。

　この費用負担は、家別と持高別で集金されています。

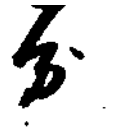
この文字に注目！

●お金の単位

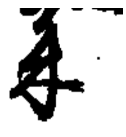
　ここでは、金と銭の額が書かれています。江戸時代のお金は、貨幣の質が大きく変動し、加えて地域によっても異なるという複雑なものであったため、を現代のお金に換算することは非常に困難です。



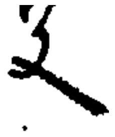
金（きん）



分（ぶ）



朱（しゅ）



文（もん）

※貨幣の換算

金

一朱×四＝一分（ぶ）

一分×四＝一両

銀

一分（ぶん）×一〇＝一匁（目）

一匁×一〇〇〇＝一貫目

銭

一文×一〇〇〇＝一貫文

●参考文献

『江戸時代館』小学館
『東村山市史　資料編　近世１・２』東村山市
『宮代町史　民俗編』宮代町